

現在の地名 (所在地)	区分	アイヌ語地名		アイヌ語の意味	解釈及び由来	出典	備考		
		カナ表記	ローマ字表記				確定	コメント	
18 イチャニ 伊茶仁 (標津町)	地区 川	イチャンイ *イチャニ	ican-i	鮭が卵を置く ----- 鮭の産卵場	その鮭産卵場	今でも鮭が沢山 ^ソ 遡上する所だという。 {旧記ではいずれもイシャニ、イチャニ、イジヤニなどになっているという。}	松浦 ----- 永田 山田	A	ican-i (ican の所属形)であった可能性が高いと思われる。
		イチャンウンイ *イチャヌニ	ican-un-i	鮭鱒の産卵場・のある・所					
19 イチャン 一已 (深川市)	地区 駅	イチャン	ican	鮭の産卵場	この辺のイチャン(鮭の産卵場)の名を採って村名としたが、屯田兵を中心とする村で威勢が良く、「一にして已(や)む」という意味をこめて一已としたという。	山田	A		
20 イトイ 糸井 小糸魚 (苫小牧市)	地区 川	コイトウイエ	koy-tuye	波が・崩す	同名が道内各地の海岸にあり、川尻が砂浜を海に並行して流れていた所や、海と湖の間に砂浜が横たわっている所である。シケの時に波が砂丘を崩し、波が川や沼に打ち込んだ場所。	山田	A	両説とも同趣旨。「波が砂丘などを崩す」ことが語源と思われる。	
		コイトウイエイ	koy-tuye-i	波・崩す・所					ここは海岸で土地が低く、時化のために浸食され、土地が削られたため。{地区名も}はじめ小糸魚の漢字をあてていたが、昭和19年字名改称により糸井となった。
21 イトイザリ 糸魚沢 (厚岸町)	地区 駅	チライカリペツ	{ ciray-kari-pet }	イトウ(魚)・通う・川	左の意識。	駅名	B	-	
		チライカラペツ	ciray-kar-pet	糸魚を捕る川 イトウ(魚)・捕る・川	永田氏はチライ・カリ・ペツとしたが kari ではそう読めない。kar とでも読んだものか？	永田 山田			
22 イドンナップ (新冠町)	川 山岳	イトウンナフ	itunnap	アリ	^{アリ} 蟻が多かったためという。	山田	B	-	
23 イノウシ 稲牛 (足寄町)	地区 川	イノウウシイ *イノウウシ	inaw-us-i	木幣・ある・所	この川の水源から山越えすると茶路川の水源地、白糠との主交通路になっていた。この川筋にイノウ(木幣)を立てて神祭りをする所があつた名であろう。	山田	B	- 他地の例からみて、山田解の方が妥当性が高いと思われる。	
		イノウウシナイ	{ inaw-us-nay }	祭壇のある川 {木幣・ある・川}	この川の上流に位置しているウコタキヌプリは昔から鹿が多く、これにイノウ(木幣)をあげる場所だったため。	更科			

現在の地名 (所在地)	区分	アイヌ語地名		アイヌ語の意味	解釈及び由来	出典	備考	
		カナ表記	ローマ字表記				備考	コメント
24 イホ 稲穂 (小樽市)	地区	イナウ	inaw	木幣	小樽市教育研究小樽のあゆみは「現在の竜宮神社の所からイナウが出て来たのでこの名がある」と誌した。竜宮神社は海を見渡す岡の張り出した先である。アイヌ時代ならイナウ(木幣)を立てて海神に祈ったろう場所であった。そのイナウがあった所なので、和人がそばの川を稲穂沢と呼び、それから稲穂町の名が生まれたものか。またアイヌ時代に海神を祭った所なので、和人がそこに社を建て、竜宮さんというようになったのではなかろうか。{塩谷へ向かうかつての山道入口の名で、イナウを供えたところらしい。}	山田	B	-
25 イホ 稲穂 (仁木町)	峠	イナウ	inaw	木幣	稲穂峠の名は道内諸地に残っている。アイヌ時代は大峠を越える時には、ルーチシ(峠)で山の神にイナウ(木幣 inaw)を供えて道の平安を祈った。和人がそのイナウを見て、そこを稲穂峠と呼んだのが今に残ったのであった。	山田	B	- いずれにせよ、イナウに関係した名と思われる。
		イナウウシ	{ inaw-usi }	木幣・いつも多くある所	アイヌはヤナギやミズキなどの木を削って木幣をつくり、険阻な道や、天気を悪変させたりする魔神をおどし、善神に感謝祈願して木幣をあげて、ここを通った。	仁木 旧地名録		-
26 イヌウシハツ 犬牛別 (土別市)	川	イヌンウシペツ	inun-us-pet	漁人の仮小屋ある川 漁用滞在小屋のある川	{ inun は小屋まで意味するのは疑問。}	永田 山田	B	? -
		*イヌヌシペツ		魚捕りに滞在する・いつもする 川	inun は「漁のために滞在する」、「その滞在用の小屋」をいう。永田氏の書いた意味か、左記の意味かどっちかであろう。	山田		- 山田解説が妥当なところなのだろう。
27 イノ 伊納 (旭川市)	駅 山岳	イヌンオペツ *イヌノペツ	{ inun-o-pet }	漁屋の川{?} (漁人の仮小屋ある川)	-	永田		? -
		イルオナイ	i-ru-o-nay	熊の足跡・多い・沢	イルオナイ イロナイ イノナイ イノ	知里	C	-
		イヌン	inun	狩漁期用の仮小屋	単純にこう呼んでいて、それがエヌとかイノとか訛ったらしくも思える。	山田		? -
28 イマ 今金 (今金町)	町	-	-	-	開拓の功労者であった今村藤次郎、金森石郎両氏の冠文字を一字づつ採ったもの。	山田 今金町勢要覧	A	和名と思われる。
29 イリシカハツ 入鹿別 (鶴川町)	川	イルシカペツ	iruska-pet	怒る・川	永田氏は「砂原の長い川で、通行する人が怒ったため」と書いた。誰が何を怒ったか忘れられていて様々な説明がされている。	山田	C	-

現在の地名 (所在地)	区分	アイヌ語地名		アイヌ語の意味	解釈及び由来	出典	備考	
		カナ表記	ローマ字表記				確定性	コメント
30 色内 (小樽市)	地区	エルムナイ	{ erum-nay }	ネズミ・沢	由来不明。	松浦	C	-
		イルオナイ	i-ru-o-nay	熊路の沢 それ(熊)の・足跡・ある・沢	-	永田 駅名		-
		エンルムナイ	enrum-nay	岬・川	旧図にはイルンナイ、イリモナイと書かれている。もしかしたら、石山の先が岬の形だった時代に、そのそばの川だということで、こう呼ばれたのではないかとも考えた。研究のための試案である。	山田		-
31 岩老 (増毛町)	地区	イワオイ イワウオイ	iwaw-o-i	^{イオウ} 硫黄が・ある・もの(川)	上に温泉あったため。 {増毛町史別刷増毛地方地名解によると、ここでは硫黄が露出しているという。}	松浦 山田	B	-
32 岩尾内 (朝日町)	地区 川 湖 ダム	イワオナイ	iwa-o-nay	岩山の川 {山・にある・川}	-	永田	C	-
		イワウナイ	{ iwaw-nay }	硫黄・川	音だけならこうとも聞こえる。	山田		-
33 イワオヌプリ (倶知安町)	山岳	イワウヌプリ	{ iwaw-nupuri }	硫黄・山	{時折噴煙を上げている、解どおりの山だという。}	山田	A	
34 岩尾別 (斜里町)	地区 温泉	イワウペツ	iwaw-pet	硫黄・川	{斜里町立知床博物館編『郷土学習シリーズ第6集』は同説を書いた上で「鮭・鱒のふ化場があり、特に硫黄分の多い川ではない。」としている。}	斜里 町史	B	?
35 イワケシ (常呂町)	山岳	イワケシ	iwa-kes	山・の末	イワケシ山の下から流れ出している川(iwa-kes-oma-nay 山の・末に・ある(入っている)・川)の名から採って、イワケシ・ヌプリ(山)と呼ぶようになったものか。ただし元来はただイワとか、ポロ・イワぐらいに呼ばれたものだろう。イワは霊山として仰がれた山のことだったらしい。	山田	B	-
36 イワシマクシペツ (清水町)	川	イワスマケシペツ	iwa-suma-kes-pet	岩下川 {山の・岩・の下の・川}	-	永田	C	-
		イワウスマクシペツ	iwaw-suma-kus-pet	硫黄の・岩・を通過している ・川	{水源の}山に硫黄があったらしい。	松浦 山田		-
37 岩知志 (平取町)	地区	イワチシ	iwa-cis	山の・中凹み	東の方に高山が二つあり、この間の凹みから落ちてくるためという。	松浦 山田	C	-

現在の地名 (所在地)	区分	アイヌ語地名		アイヌ語の意味	解釈及び由来	出典	備考	
		カナ表記	ローマ字表記				備考	コメント
38 イワナイ 岩内 (岩内町)	町 山岳	イワウナイ	{ iwaw-nay }	硫黄・沢	{岩内町史は「定説を見いだせない。」とした上で、「岩内平野を流れる川はいずれも、岩内の東方にそびえるイワオヌプリを水源とするように見え、また、岩内平野を迂回曲折して流れているので、時季によっては著しく混濁して、あたかも硫黄が混入したように見えたかもしれない。」としている。}	上原 松浦	C	-
		イヤウナイ	iyaw-nay	熊肉を乾かす{?}・沢	-	永田		? -
		イエオナイ	ye-o-nay	軽石{?}・多い・川	上流二里の辺りに軽石が多かった。			? -
		イワナイ	{ iwa-nay }	山・川	-	駅名		-
39 イワミザリ 岩見沢 (岩見沢市)	市 駅	-	-	-	開拓期に道路工事へ通う人たちが一棟の休憩所を利用して湯に入り疲れを癒やした湯浴み(ゆあみざわ)から変化したもの。	岩見沢市 HP	C	

【ウ】

	現在の地名 (所在地)	区分	アイヌ語地名		アイヌ語の意味	解釈及び由来	出典	備考	
			カナ表記	ローマ字表記				備考	コメント
1	ウイナイ 植苗 (苫小牧市)	地区 駅	ウエンナイ	{ wen-nay }	悪い・川	土地の川の名から出たらしいが、どう悪かったのか今では分からなくなっている。 {苫小牧史も同説。}	山田	C	-
2	ウイヒラ 上平 (苫前町)	地区	ウエンピラ	wen-pira	悪い・崖	なぜ悪いかは記録にないが、たぶん落石などで危険な場所だったと思われる。 {苫前町史も同説。}	山田	C	-
3	ウインナイ 雨煙内 (幌加内町)	地区 川 ダム	ウエンナイ	wen-nay	悪い・川	どう悪かったのか今では分からなくなっている。 {幌加内町史も同説。}	山田	C	-
4	ウインハツ 雨煙別 (幌加内町)	地区 川	ウエンペツ	{ wen-pet }	悪い・川	断崖が多く、川を伝って歩くのに困難であったため。 悪いの意味はたぶん後人の推定であろう。	駅名 山田	C	-
5	ウシシハツ 牛首別 (豊頃町)	地区 川	ウシシペツ	usis-pet	鹿蹄川 ヒツメ {蹄・川}	かつて鹿跡が多かった。今はない。	永田	B	-

現在の地名 (所在地)	区分	アイヌ語地名		アイヌ語の意味	解釈及び由来	出典	備考	
		カナ表記	ローマ字表記				備考	コメント
6 ウシハツ 牛朱別 (旭川市)	川	ウシシペツ	usis-pet	蹄・川	鹿跡多き川であった。	永田	B	- 「蹄・川」解の方が一般的な形と思われる。 -
		イシシペツ	{isis-pet}	^{イキドオ} {憤る・川}	上川アイヌは「雪水が多く下り陸に氾濫する様子から名付けられた。」という。 ^{ハシラン}			
7 ウス有珠 (伊達市)	地区 駅 山岳 湾	ウシオロ *ウソロ	us-or	入江 入江・の内	奥の深い波静かな入江である。	上原 山田	B	- いずれにせよ、「入江」が名の元と思われる。 -
		ウシ	us	入江				
8 ウシヤ 白谷 (小平町)	地区 海岸	ウシヤ	us-ya	入江・の岸	{砂地が緩い湾曲をしているところである。}	山田	B	-
9 ウタコシ 歌越 (遠別町)	地区	オタクシペツ	ota-kus-pet	砂越える川 砂浜・を通っている・川	-	松浦 山田	C	- 地名化されるに至った経緯など不明。
10 ウタシナイ 歌志内 (歌志内市)	市	オタウシナイ *オタシナイ	“ota-us-nay” {otas-nay}	ウタシナイ川 (砂浜・ついている・川)	市内を流れるペンケウタシナイ川の音を採ったものと言われる。母音が二つ続くので、一つを略してオタシナイと呼ばれ、また、和人のくせでオがウに訛ってウタシナイになったのであろう。 {歌志内市勢要覧も同説。ペンケウタシナイについては別掲。}	山田	B	-
11 ウタスツ 歌棄 (寿都町)	地区	オタスツ	ota-sut	砂浜・の根元	同名の多くは、これから岩磯地帯になろうとする砂浜の端の所である。元来は寿都湾奥の北面する長い砂浜の東端の地名。	知里 山田	A	
12 ウタナイ 歌内 ウトナイ 宇戸内 (中川町)	地区 駅	ウツナイ	ut-nay	肋骨・川	ウツナイ 宇戸内 歌内。 ut-nay は道内諸地にあるが、具体的意味ははっきりしない。	駅名 山田	A	
	川				背骨に対する肋骨のように、本流に対して直角に近く流れ込む川であるため。	中川 町史		
13 ウタノホリ 歌登 (歌登町)	町 山岳 ダム	オタヌプリ	ota-nupuri	砂・山	元来は町外の幌別川河口地域の名称だったが、行政区画の変更後も名が引き継がれた。 幌別川川口から1kmほど北西にあるオタヌプリという砂山が語源。昔の砦であったところである。	山田 歌登 町史	A	

現在の地名 (所在地)	区分	アイヌ語地名		アイヌ語の意味	解釈及び由来	出典	備考	
		カナ表記	ローマ字表記				備考	コメント
14 ウタバツ 歌別 (えりも町)	地区 川	オタペツ	ota-pet	砂・川	この辺では珍しい、少し広い砂利浜の中を流れる川である。 ----- 川尻が砂浜になっているためだろう。	永田 山田 えりも町史	B	-
15 ウツ 宇津 (興部町)	地区 川	ウツ	ut	脇川 肋骨	ウツ(ut 肋)、ウツナイ(ut-nay 肋・川)は道内至る所があり、沼、大川に肋骨のように繋がっていた川だったらしい。 {興部町史は「脇川」について「本流に対して横から入ってくる支流は人間の腕の川であり、本流に流れ込む辺りは脇に当たるため。」と書いている。}	永田 山田	A	
16 ウツツ 宇津々 (紋別市)	地区 川	ウツ	ut	脇川 肋骨	沼や大川に肋骨のように繋がっていた川だというが、よく分からない。	永田 山田	C	-
17 ウツナイ (幌加内町)	川	ウツナイ	ut-nay	肋骨・川	ウツナイの多くは沼に繋がっている小川であるが、この川は長流である。元来は最下流の小川の名であったかもしれない。	山田	C	-
18 ウツナイ (浦幌町)	川	ウツナイ	ut-nay	肋骨・川	他の同名と同様はっきりしない。 枝川くらいの意味か。	山田	C	-
19 ウツツ (遠別町)	川	ウツナイ	ut-nay	肋骨・川	三つの川が並んでいる形からいったものか。 よく分からない。	山田	C	-
20 ウトナイ (苫小牧市)	湖	ウツナイ	ut-nay	肋骨・川	ウトナイ湖から流れ出て、勇払川に注ぐ川で、勇払川の脇腹から肋骨のように細長く突き出てウトナイ湖に入り込んでいるため、呼ばれたもの。ウトナイ湖の原名は「キムント kim-un-to 山・にある・沼」あるいは「キムケト kimke-to 山奥・沼」であったが、別の名を「ウツナイト utnay-to ウツナイの沼」と呼んだ。	苫小牧 市史	A	
21 ウトマ 鵜苦 (様似町)	地区 川 駅	ウトウマムペツ	utumam-pet	抱き合う川 ----- 合川 抱き合う・川	ウトマンベツ山と幌別山が並びあってあるため。 ----- 幌別の古川と合流していたため。 今でも両川の間には古川跡が残っている。	上原 永田 山田	A	- 由来は永田(山田)説が妥当と思われる。
22 ウトロ 宇登呂 (斜里町)	地区 温泉	ウトウルチクシイ *ウトウルチクシ	uturu-ci-kus-i	その間・我らが・通行する・所 ----- 岩間を舟が越える	岩の間の細道を通して部落から浜へ往来していた。 {ウトロ漁港近くのゴジラ岩(ローソク岩)と鍋型の大岩の間のことをいうらしい。} ----- -	知里 松浦	A	意味、由来は知里説が妥当と思われる。 -

現在の地名 (所在地)	区分	アイヌ語地名		アイヌ語の意味	解釈及び由来	出典	備考	
		カナ表記	ローマ字表記				備考	コメント
23 ウナベツ 海別 (斜里町)	川 山岳	ウナベツ	una-pet	灰・川	昔、噴火があったとき、川が灰で埋め尽くされた。 {斜里町立知床博物館編『郷土学習シリーズ第8集』も同 説。}	永田	B	- いずれにせよ、una に関係し た名と思われる。
		ウナオベツ	una-o-pet	灰の・入った・川				
24 ウバクベツ 宇莫別 (美瑛町)	地区 川	ウバクベツ	u-pak-pet	相・匹敵する・川	流量ほぼ匹敵する辺別川本流と並流している。	知里 山田	A	
25 ウバラナイ 卯原内 (網走市)	地区 川	ウバラライ	{ u-par-ray }	口無川 (互いに・川口・死ぬ)	この川は三筋あるが皆川口が無かったため。	永田	C	-
		オバラライ	{ o-par-ray }	川口の死んでいる{?}	能取湖に注ぐあたりが湿地で川口が明瞭でないところから 出たものである。(25年版)	駅名		? -
		オパラナイ	{ o-para-nay }	川口・広い・川	(29年版)			-
26 ウブン 雨紛 (旭川市)	地区 川	ウブン	upun	雨雪飛ぶ所 ふぶき	水源の山から雨雪を吹き飛ばすので命名された。	永田 山田	C	-
27 ウペペサンケ (上士幌町)	山岳	ウペペサンケ ヌプリ	upepe-sanke-nupuri	雪融け水を・出す・山	この山の雪が融ける時に川水が大きく増水したためだっ ただろう。 {この山を水源とするシシカリベツ川の上流一帯は、エ ゾマツやトドマツが密集する樹林であったという。雪解け 水の量も現在よりはるかに多かったと想像される。}	山田	A	
28 ウラウス 浦白 (浦白町)	町 駅	ウラシナイ	uras-nay	笹・川	-	永田	B	-
		ウライウシベツ *ウラユシベツ	uray-us-pet	ヤナ 築が・多い・川	昔、鮭鱒を捕るため築をかけた。	駅名		-
		ウライウシナイ *ウラユシナイ	uray-us-nay	築が・ある・川		山田		-
29 ウラカ 浦河 (浦河町)	町 駅	オラカ	{?}	腸{?}	昔、ここで漁獵が行われ、魚獣の腸が沢山あった。	上原	C	上3説 ? -
		ウラカ	{?}	鹿腸{?}	未詳。	秦		元来は20キロぐらい西の元 浦川の地名で、会所の移転に 伴い、現在名称となったもの。
		ウラカ	{?}	モヤ 雲霧立ち昇る所{?}	禽獣の腸の事ともいう。	松浦		-
		ウララベツ	urar-pet	霧・川	-	永田		-

現在の地名 (所在地)	区分	アイヌ語地名		アイヌ語の意味	解釈及び由来	出典	備考	
		カナ表記	ローマ字表記				備考	コメント
30 ウラシハッ 浦士別 (網走市)	地区 川	ウライウシペツ *ウラユシペツ	uray-us-pet	ヤナ 築が・ある・川	{網走市史は「ここに昔はコタンがあり、川口に築を立てて魚を獲ったため。」と書いている。}	山田	B	-
31 ウラ 和 浦 幌 (浦幌町)	町 川	オラノオロ *オラポロ	orap-oro	センキョウ 川 苜多き所 ヤマシャクヤク{?}・の所	-	永田	C	? ?
	駅	ウララポロ	urar-poro	大霧 霧・多い	-	山田		-
32 ウラ リ 浦 和 (静内町)	地区	ウララ	urar	霧	霧の多い所であった。	永田	C	-
33 ウリ マク 瓜 幕 (鹿追町)	地区 川	ウリマク	uri-mak	丘後{?} その丘・の後(の方からの川)	この川は左右の諸川よりずっと長い川で、北側の台地の奥の方から流れ出ている。それでこう呼ばれたのであろうか。	永田 山田	C	-
34 ウ リュウ 雨 竜 (雨竜町)	町 川 沼 ダム	ウリウ	{?}	{?}	太古神がつけたという伝説による。	松浦	C	? -
		ウリリオペツ *ウリロペツ	urir-o-pet	ウ 鵜の川 {鵜・たくさんいる・川}	河口に鵜が沢山いた。 {現在はカワウの姿は見えないという。}	永田		-
		オリリオペツ *オリロペツ	{o-rir-o-pet}	そこに・波・立つ・川	-	駅名		-
35 ウリリ 有利里 (名寄市)	川	ウリリルベシペ	urir-rupespe	雨竜・峠道沢	ウリウへの山越路があるため。 雨竜の母子里にあるテセウ・ルベシペ(天塩・峠道沢)の水源が相対して、古くその間に交通があったことを物語っている。	松浦 山田	A	
36 ウルベシ (美深町)	川	ウリリルベシペ	urir-rupespe	雨竜からの・峠道沢	ここから雨竜へ往古道があったため。 この川を上り山を越えると、雨竜川の源流に出る。 {美深町史も同説。}	松浦 山田	A	

【エ】

現在の地名 (所在地)	区分	アイヌ語地名		アイヌ語の意味	解釈及び由来	出典	備考	
		カナ表記	ローマ字表記				備考	コメント
1 エ サシ 枝 幸 (枝幸町)	町	エサシ	esas { ? }	コンブ{ ? }	沖の岩礁に昆布があった。 北部では昆布をサシとは言うが、エサシとは言わない。	永 田 知 里	A	? - 他地の例を見ても、「岬」説が 自然な形と思われる。
		エサウシイ *エサウシ	e-sa-us-i	頭が・浜・についでいる・所 = 岬	檜山の江差と同じように、突き出した岬の所の名である。 {枝幸町HPも同説。}	山 田		
2 エ サシ 江 差 (江差町)	町	エサシウシ	{ e-sas-us }	食するコンブがある {食べる・コンブ・がついている?}	昔飢餓の時、北海岸のアイヌがここに来て、昆布によって命を保ったためという。	松 浦	A	? - 他地の例を見ても、「岬」説が 自然な形と思われる。
	駅	エサウシイ *エサウシ	e-sa-us-i	頭を・浜・についでいる・所 = 岬	道南では昆布をサシとは言わない。地形(岬)から名付けられた。	知 里		
3 エ サン 恵 山 (恵山町)	町	エサンイ *エサニ	e-san-i	頭が・浜の方に出ている・所 = 岬	地形(岬)から名付けられた。	山 田	A	「岬」説が自然な形と思われ る。 -
	山岳 岬 温泉	イエサン	ye-san	噴火山(浮石・下る)	噴火により、火を噴き浮石を飛ばしたため。	永 田		
4 エタイェッ 恵岱別 (雨竜町)	地区 川 ダム	エタイェベツ	etaye-pet	頭がずっと奥へ行っている・川 引っぱる・川	「頭がずっと奥へ行っている・川」の意味でこの長い川をエタイェ・ベツと呼んだのもあろうか。	知 里 山 田	C	? -
5 エタンハッ 江丹別 (旭川市)	地区 川 峠 ダム	エタンネベツ	e-tanne-pet	頭・長い・川	-	知 里	C	- - ? -
		エトクタンネベツ	etok-tanne-pet	水源が・長い・川	近文の荒井翁は「古い人はエタンベツでなく、エトコタンネベツと呼ぶと言っていた。」と語った。	山 田		
		エタムブベツ	etamp-pet	漂川{ ? }	アイヌが舟を覆し、漂った川。	永 田		
6 エト オ 択 捉 (北方領土)	島	エトウオロオブ *エトウオロブ	etu-or-o-p	鼻・水{ ? }・ある・もの	松浦氏は「人が鼻水をたらしている形状の石があったため」と書いたが、蝦夷地名解のエトロ・ブ(鼻水・所)から採ったものか。あるいは、左記のような意味でもあったか。	山 田	C	? - -
		エトウオロオブ	{ etu-oro-o-p ? }	岬のある所 {鼻・の所・にある・所 ?}	この方が地名的な解だが、意味が忘れられた名であり、今ではその当否をいうこともできない。	駅 名 山 田		
7 エ ニワ 恵 庭 (恵庭市)	市 駅 山岳	エエンイワ	e-en-iwa	鋭山 頭が・尖っている・山	この山は休火山で尖峰争立する様により名付けられた。 急傾斜な円錐形の山であり、特にその山頂には巨岩がそびえていて、激しく尖って見える。 {恵庭市HPも同説。}	永 田 山 田	A	
8 エ ビシマ 恵比島 (沼田町)	地区 駅 山岳	エピシオマブ *エピソマブ	e-pis-oma-p	頭(水源)が・浜(の方)・ に入っている・もの(川)	諸地に同名があるが、その水源から向こうに越えて海辺に行ける川で、交通路になっていたらしい所が多い。このpisは、おそらく留萌の方を指していたのだろう。	山 田	A	

現在の地名 (所在地)	区分	アイヌ語地名		アイヌ語の意味	解釈及び由来	出典	備考	
		カナ表記	ローマ字表記				備考	コメント
9 エピシオマップ (幌加内町)	川	エピシオマップ *エピソマップ	e-pis-oma-p	頭(水源)が・浜(の方)・ に入っている・もの(川)	解説同上。 この場合の pis は、羽幌の辺を指したものらしい。	山田	A	
10 エプイ (浦河町)	地区 川 駅	エプイ	epuy	フキ 露台{?} {実、種}	この所に露台がたくさんあった。 土地の浦川タレ媼はここはつわぶきが 多くあった所で、根を乾かして貯蔵食 にしたという。エプイはまた、ぼこんと 盛り上がったような山にも使われたので、 注意を要する。	永田 山田	C	-
11 エペオツ (滝川市)	地区 川 駅	ユペオツ	yupe-ot	鮫居川 チョウザメ・たくさんいる	{滝川市史は同説を支持。}	永田 山田	C	-
		イペオツイ *イペオチ	{ipe-ot-i}	サケの多くいる所 魚が・多くいる・所	25年版は永田解を踏襲、29年版から左記解とした。	駅名 山田		-
12 エペツ (江別市)	市 駅	エペツケ	e-petke	顔・裂けている	兔唇の如く三ツに分れる所。	松浦 山田	C	-
		ユペオツ	yupe-ot	鮫居る川 チョウザメ・たくさんいる	-	永田 山田		-
		イプツ	{i-put}	そのの・入口	大事なところ(往時文化の大中心地 だった千歳)への入口を意味しているの だろう。	駅名		-
13 エホロカ 江幌 エホロカ 江幌 江幌完別 (上富良野町)	地区 川	エホロカアンペツ	e-horka-an-pet	頭(水源)が・後向き・ である・川	地区名は川名を下略して地名としたもの。 {水源が、本流の富良野川の方に後戻り しているという意味であろう。語意ど おりの川だという。}	山田	A	
14 エラ 江良 (松前町)	地区	エラマンテウシ {イラマンテウシ}	eramante-usi {iramante-us-i}	漁人の小屋ある所{?} {狩漁する・いつもする・所}	狩猟の場所だったのでついた名か。	永田 山田	C	? -
15 えりも (えりも町)	町 岬	エンルム	enrum	岬	元来は襟裳岬の名で、町名は以前は幌泉 (ポロエンルム poro-enrum 大きい・岬 あるいは ポンエンルム pon-enrum 小さい・ 岬の訛りといわれる)であった。 {えりも町史も同説。}	山田	A	「岬」説が妥当と思われる。
		エルム	erum	ネズミ	この崎岩の内にネズミがいたため。	上原 山田		-